

## 第 2 回産学人材育成パートナーシップ全体会合の報告

日時：平成 20 年 3 月 27 日（木） 16：00～18：00

場所：文部科学省（3 階）第 2 特別会議室

## 1. 主な議論（分科会共通）

- バイオ分科会が設置された。
- 将来を担う人材に求められるものとして、①基礎的な知識、②グローバルな感覚、③マネジメント能力、④課題発見・解決力、⑤コミュニケーション能力などが挙げられた。
- 産学双方の課題として、①各分野における魅力の向上と発信、②産学共同による人材育成プログラムの開発、③グローバルな人材育成、④産学双方向の人材交流、⑤産学双方の人材育成・活用の効果的な接続などが挙げられた。

## 2. 情報処理分科会における議論の紹介（阿草委員より以下のとおり紹介）

- 求められる人材像は多様であるものの、情報処理分野においては、様々な問題に対応できるデザイン力と現実適応力、論理的な抽象化能力などが共通的に求められる能力と認識された。
- 産学における主な課題として、以下の点が共有された。
  - ・ 3Kなどと言われ、情報産業のイメージが悪い。
  - ・ 激しく変容する分野であり、体系的なカリキュラムの整備が困難。
  - ・ グローバル化の中、新興国とは異質の人材が求められている。
  - ・ 学生に対するキャリア・パスの明確化が必要。
- 今後取り組むべき主な課題として、以下の点が挙げられた。
  - ・ 産業の魅力、キャリア・パスを明確にして学生に提示。
  - ・ 学部から大学院までの連続性の確保に関する検討。
  - ・ カリキュラム標準とスキル標準等とのつながりを明確化。
  - ・ インターンシップやPBL等の産学連携による実践的な教育の充実。